



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

96.9.27 No. 4472

根こそぎで

11・10

労働者総決起集会へ！

恒常的スト体制堅持し、 国鉄闘争勝利へ！

全ての組合員の皆さん！
動労千葉は、この一年間「全国にはばたこう」をスローガンに、正念場を迎えている国鉄闘争勝利の決意も固く、JR総連革マル解体―「JR体制打倒」の闘いに総力を挙げて闘いぬいてきた。また、この闘いを勝利させるための大きな陣形づくりでもある「大失業時代と対決する労働運動の新たな潮流」を形成するために、全国の仲間たちに檄を発し、ともにたたかいてきた。

こうした闘いの上に、第二三回定期大会が、九月二十九日～三十日にかけて開催される。

「国鉄闘争の勝利が労働者の未来を決める」

本定期大会で獲得すべき課題は、この一年間、勝浦運転区廃止攻撃粉碎・鴨川支部結成の闘いをはじめ、組合員全員が汗を流し、団結を固め前進してきたその成果をしっかりと確認し、決意も新たに国鉄決戦勝利に向けての闘う方針を決定することである。

そして、こうした闘いを勝利利導く初戦の闘いとして「十一・一〇全国労働者総決起集会」の労働者五〇〇〇名の大結集にかかっていることをしっかりと確認しなければならぬ。

「よみがえれ労働組合」

りもどそう団結」を合言葉に、日比谷野音を労働者で埋め尽くしたとき、労働運動の流れは大きく変わる。この熱い息吹が沖繩の闘いと結合した時、確実に日本は変わるのである。

「清算事業団闘争勝利へ闘う体制の強化を」

第二三回定期大会でかとなるべき課題の第一は、解雇撤回・清算事業団闘争勝利への決意と体制を固めることである。

国鉄闘争勝利の道筋は、国労指導部によって画策されている路線転換・屈伏路線を断じて許さず、自らの力で「JR体制」と対決し、全ての職場からJR総連解体の闘いに総決起することである。

一〇四七名の闘いの持つ決定的位置を再度とらえかえし、安保・沖繩闘争と結合し、長期闘争体制をしっかりと堅持して闘うときに勝利の展望は大きく切り開かれるのである。

「幕張・千葉転に続き恒常的スト体制を」

課題の第二は、「JR体制」打倒、奪われた労働条件と権利を奪い返すために、恒常的スト体制を継続・強化して闘うことである。

幕張支部における有機溶剤作

業に対する千葉支社の謝罪、千葉運転区支部を中心とした夏季輸送闘争での要員増の獲得に見られる成果を動労千葉全体で確認し、いつでもどこでも闘争に立ち上がる体制を強化することである。

「JR総連革マル解体は今や「ときの声」だ」

課題の第三は、JR総連解体、組織強化・拡大の闘いに全力で立ち上がることである。

諸悪の根源がJR総連革マルにあることは、今や誰の目にも明らかになっている。JR総連革マル解体・一掃は、今やときの声となつてきている。

「第三次安保・沖繩闘争を！」

課題の第四は、安保・沖繩闘争を軸とした反戦・政治闘争に総決起することである。

安保・沖繩闘争は、労働者の未来、日本の未来を左右する決定的な闘いである。沖繩県民の決起とそれとともに闘う本土労働者の闘いは、日米安保体制を根幹から揺るがしている。なによりも、連合支配や橋本政権をグラグラに追い詰めている。国鉄闘争と安保・沖繩闘争は、闘う労働者の二大結集軸であり、この二つの闘いの結合は、必ず

日本労働運動をよみがえらせる闘いとなることは明らかだ。安保粉碎・基地撤去の闘いは、労働運動の最重要課題だ。さらに闘いを強化しよう。

「さらに全国にはばたこう！」

課題の第五は、労働運動の新たな潮流をつくりだすために、「全国にはばたこう」運動をさらに大胆に展開することである。当面の目標として、十一・一〇全国労働者総決起集会に、勤務以外の組合員が根こそぎ決起をかちとることだ。

第二三回定期大会で熱烈的な討議を行い、全ての職場で集会・オルグをかちとり、正念場を迎えた国鉄闘争勝利へ全力で決起しよう！

9/29~30
23回定期大会
傍聴動員を！